



愛知県板金工業組合
愛知板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋昭和区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

2005年

『全国建築板金業者愛知大会』に向けて

長谷川信義・森徳夫副知事に面接、また県議会正副議長

05年に第五十七回全国建築板金業者愛知大会を開催す
この大会を成功させるために、村上理
事長、斉藤・長谷川・高柳
各副理事長に青島事務局長
が精力的に行政にアプローチしている。
七月九日には愛知県庁へ
赴き県知事を訪問、残念な
がら知事が不在のために直
接開催を報告することは出
来なかったが、

七月二十六日には名古屋
市役所に市長を訪問したが不在のため因田義男助役に面接
又、市議会正副議長にも開催の挨拶をした。
その後名古屋市民経済局、愛知県中小企業団体中央会、名古屋商工会議所、(財)名古屋観光コンベンションビューロー、中日新聞本社を表敬訪問、2005年愛・地球博にちなんで全国大会を全国から五千名の参加を目指して盛大に開催することをアピールした。
この日の表敬訪問では東海地方で最大手の情報メディアである中日新聞社が二十七日付の朝刊一面に記事を掲載しているのを参照してほしい。



技能士への挑戦

建築板金(内外装板金作業) 技能検定試験

平成14年度、建築板金(内外装板金作業)技能検定試験の実技試験が、7月21日(旧午前10時から岡崎市羽根町の岡崎地域職業訓練センターで開催された。

愛知県全域からは、48名の受験申請(実技・学科)があり、一級には25名(1名欠席)、二級には、20名(2名欠席)の合わせて45名の二十代の青年が、製図用紙に展開図を書き垂鉛鉄板に写して加工に汗を流して挑戦していた。

会場は、梅雨が明け30度を超える暑さに加え、受験生達の熱気でさらに温度は上がっていた。
試験開始時間にさきだつて、佐藤忠雄技能士会長、村上章愛知県板理理事長より、受験生達に激励の挨拶があり、検定委員から注意事項の発表、道具の検査、補佐員から製図用紙の配付があった。

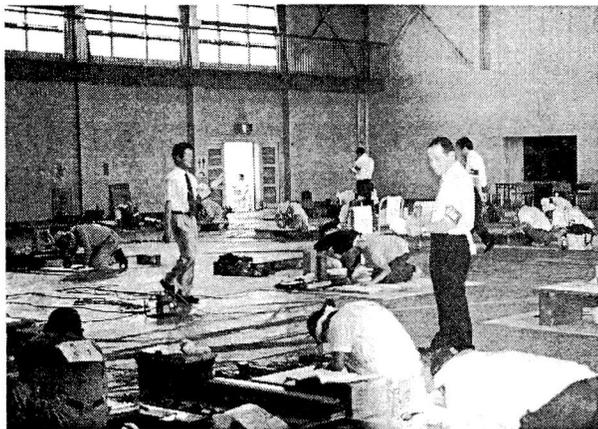
一級には、当日発表のx寸法があり、xは120と発表された。一級の課題は、谷樋と落ち口の製作で、谷樋は緩いV型に片方は八千代止め加工、一方はハゼによる止め加工で、

技能検定試験

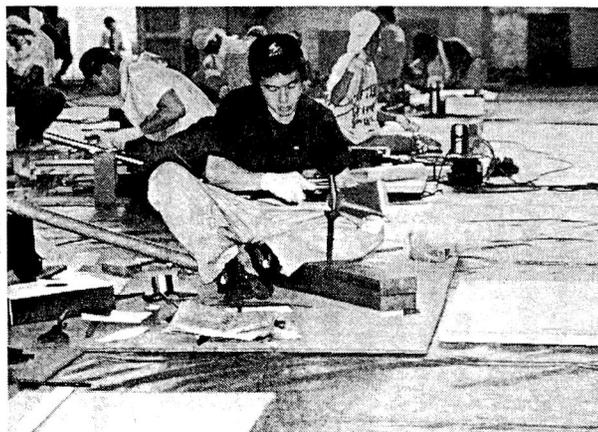
八千代止め加工の方にエキスパンションカパーをビス止めし、ハゼによる止め加工の方に溢れ口を取り付け、落ち口は、角丸円錐型で丸の部分にパイプをハゼしがみに加工して取り付け、角部の四面をカシメリベットで谷樋に取り付け、所定箇所半田付けをして完成。
二級は、角樋と落ち口の製作で、角樋は底が平らで止め

加工は一級と同じ八千代止めとハゼによる止め加工。落ち口は、角丸円錐型で丸の部分は一級と違いパイプを半田付けで取り付ける。角樋への取り付けは、二面をブラインドリベットで取り付け、所定箇所半田付けをして完成。
材料の厚みは、一・二級とも0.35mmで大きさは、一級が914mm×600mmで二級は、914mm×914mmの垂鉛鉄板である。作業時間は、一級が四時間三十分、二級は四時間が標準時間で、一・二級とも三十分の打ち切り延長時間がある。
選手は、背中にゼッケンをつけ、決められた広さに持ち

込める工具を整理整頓良く並べ、作業をしていた。
作品は、打ち切り時間内に、全員が提出されて実技試験は終了した。
採点は、翌22日に検定委員と補佐員が徹しく採点し、学科試験免除者以外は、9月8日に学科試験を受験し、技能検定試験は終了する。
合格発表が10月にあり、実技試験、学科試験に合格した受験者は、12月の技能検定合格証書伝達式で合格証書が授与される。
検定委員・補佐員・役員の方々が苦勞さまでした。
岡崎 宇野



作業風景



かり出し作業

中部板金工業組合協議会

青年部 第十八回通常総代会

平成14年7月14日、名古屋市中区の名古屋クラウンホテルにて、愛知県板金青年部担当で開催された。

中部板金工業組合協議会(中板協)は、中部地方の石川県・岐阜県・静岡県・富山県・福井県・三重県・愛知県

の七県から構成され、毎年、各県持ち回りで開催されている。代議員は、七県の青年部員526名(平成14年6月末)のうち35名が任命されている。愛知県は、本田幹雄青年部長・河田雅彦青年部相談役が、中板協青年部副部長に任命されている。

午後1時より、片山雅博代議員(愛知県)の司会で、本田幹雄副部長の開会の挨拶、小田由紀文部長(三重県)の部長挨拶の後、来賓の紹介・挨拶で、中板協会長・竹野茂氏(石川県)、愛知県板理事長・村上章氏に挨拶をいただいた。

杉浦明代議員(愛知県)が議長に、岡山邦治代議員(福井県)が書記に、選出されて審議に入った。

審議に入る前に、代議員35

名のうち29名が出席、6名の委任状の提出があり、総代会は成立すると発表があった。

第一号議案では、平成13年度の事業報告・決算報告・監査報告があり、事業報告のなかに、全板連青年部主催の「あすなる研究会」を中部で開催し、過去最高の参加者をもみても、現状打破にかける意識の高さがうかがえ、また、「全国建築板金競技大会」では、中部から5名の入賞者があるが、ベシシクな面を確実に習得し習熟することによって、もっとレベルアップが可能と報告された。

第二号議案では、平成14年度の事業計画案・予算案の承認審議に入った。事業計画案のなかに、「全板連青年部」の諸事業への継続および積極的参加、基幹技能者の育成および諸資格取得の推進、全板連・中板協・県板との情報の緊密化、全板連事業の積極的推進を呼び掛けていた。

第一号・第二号議案は、すべて上程どおり承認可

決されて審議は終了し、塩川博昭幹事(静岡県)の閉会の挨拶で総代会は閉会した。

休憩後、協賛メーカーの(株)イリノ、(株)サカタ製作所、積水化学工業(株)、(株)東海セキノ興産より商品説明が行われた。

続いて、部屋を移動して懇親会に入った。河田雅彦全板連青年部長(中板協青年部副部長・愛知県)の乾杯の音頭で、総勢43名が親交を深め、途中、出席者全員が自己紹介をし、大久保彰会計(福井県)の締め挨拶で午後5時散会した。

第23回「あすなる研究会」が、平成14年9月8日(日)・9日(月)の両日、滋賀県大津市「大津プリンスホテル」において開催される。

岡崎 宇野

常務理事会開催

「愛知県板会議室」

7月9日午後3Fにて

愛知県板では第3回の常務理事会を開催、総代会以後は初めとなる。先ず、村上理事

長挨拶の後、前事務局長谷澤氏の後任として、新たに青島直幸新事務局長が就任され紹介の後、直ちに司会を担当され、提案された議題に従い審議にはいった。

議題

- 一、二〇〇五年全板愛知大会について
- イ 岐阜県板全板大会調査記録の検討
- ロ 全板岐阜大会準備委員会経過報告

- 二、全板愛知大会準備委員会の構成について
- 三、今後の事業計画について
- 四、その他

審議の内容

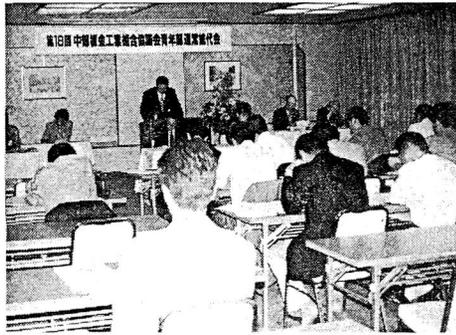
村上理事長は初期の段階として、全板愛知大会誘致に伴う、県及び県議会へ表敬訪問を行った。更に自民党・公明党・民主クラブ・県政同志会などへ積極的にPRを兼ねて訪問したとの報告あり。

れる、ブロックを通じて未加入者の再考を促したいとの結論に至った。

★責任保証制度は順調な経過の推移を示しているが、看板店の名札を所持するも一部の会員のみの申込み、一方的な片寄りでの取扱いで、総べての所持者が制度を活用する事によって、社会的信頼が高まりメリットが得られよう。制度の趣旨を良く理解し、業界の活性化を計るため、会員の一層の申込みを願ひ、更なるPRに励み、徹底したいとの結論に至った。尚、制度の中で水きり、両押さえチェックシートの変更がなされ、一〇〇→一〇〇mmに変更された事を通知する。

★基幹技能者養成講習会が開催される事が決定され、来たる九月二十二日(日)、二十三日(月)の二日間の予定で行われる。場所は県中小企業センターにて、費用は三万五千元となっている。これらの講習の前提として、職長・安全衛生責任者教育講習も予定しており、詳細は申込時に県板事務局へお尋ね下さい。更に、北陸地方でも開催が予定されているので、お問合わせを。以上で審議を終え、斎藤副理事長の閉会の辞で会議を閉じた。

K・N



総代会風景

東三支部 家族親睦会

7月21日(日)、梅雨明けの茹だるような暑さの中、東三支部恒例の家族親睦会を鳳来町の愛知真民の森にて行った。昨年同様地引網を敬遠しパーベキュー大会とした。

今回は企画・運営を青年部が担当し、開始1時間前に現地に集合、北河青年部長の指揮で各係にわかれ開始時刻には完璧に準備が調っていた。今年も子供向けに「アユのつかみ取り」を計画。昨年はアユの元気がなく意外と簡単

につかまえる事ができたとの反省から、今年は細心の注意を払い生きの良いアユを100匹用意した。しかし、数日前の台風の影響で沢が増水しており、手づかみするのはほとんど無理な状況。それでも高学年の男の子は何匹かゲット。結局20分〜30分子供を遊ばせた(?)後に、青年部員が手網を使って必死に確保する事となった。

取ったアユを会場に持ち帰り、いよいよパーベキューの

開始。メニューはアユの塩焼・焼き肉・焼きソバ・ウイソナー・手羽先・五平餅…。青年部員、事務員、役員、また奥様方が汗びっしょりで料理に奮闘していた。

今回は大人59名、子供37名と例年より少なめの参加人数ではあったが、皆が満腹になった2時頃には参加者が自立的に片付を手伝ってくれ無事終了となり、大成功のパーベキュー大会と感じられた。尚、寸志を頂きました横山興業様にはお礼を申し上げますと共に、何より青年部員の皆様、おつかれ様でした。

(来年もヨロシク!)

東三 松浦



▶ やっとつかまえたアユを手にハイポーズ!



▶ パーベキュー風景

銅板レリーフ

愛板青年部一宮支部は、七月二日に葉栗郡木曾川町立東小学校で「物作り体験」として銅板レリーフを課外授業で実施した。技能士会より、佐藤、湯浅両氏の協力があり行われました。

タイトルは「銅板レリーフで遊ぼう」です。小学五年生を対象に行い、生徒は三クラス九十一名でしたが、一クラスずつ分けて一日かけて八名の指導者で出来ました。

銅板レリーフとは、厚さ〇・一五ミリの銅板にいぶしをかけてそこに絵を描く、木製ヘラで絵を浮き出させて完成となります。予め子供達に下絵を準備してもらいました。

ポイントとして、下絵を銅板に写しボールペンでなぞる時に力が要るため力加減を伝える。木製ヘラで裏からボールペンの線の内側をなぞる。ここでも力が要るので力加減を伝える。仕上げで浮き出た絵を硝ウール付のスポンジで磨きます。どの部分を磨くのかを伝える。以上のポイントに注意をして、指導者は生徒達に教えました。始めはこちらも緊張気味で、レリーフを上手く伝える事が出来るか生徒達が、怪我なく楽しんでやるのか心配でしたが、怪我す

る子もなく楽しんでもらえたと思います。課外授業の後で、校長先生五年生全員から感想文を頂き楽しんでもらえました。

「物作り」を、テーマにボランティア活動の一環として今回の小学校での銅板レリーフを実施し、まだ他にもできるものはあると思う。建築板金業を知らない大人がいる中「板金屋さん、こんな事もやってるんですよ」と子供達を通して大人達に、愛板青年部一宮支部は、アビールで「仕事」を体験出来た事は大変有意義だったと思う。中日新聞の三日の尾張版に掲載してもらいアビール出来ました。学校給食を生徒たちと食べさせて頂き童心に帰る事もでき、これも貴重な体験です。これを機会にして愛板青年部一宮支部は、いろいろ取り組んで活動して行きます。

一宮 田中



▶ 銅板レリーフ製作風景

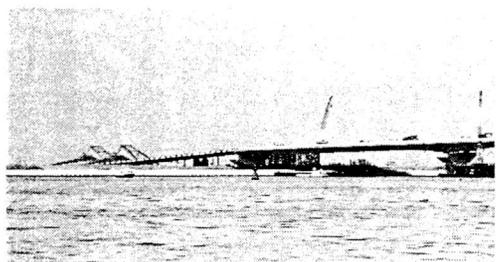


中部国際空港セントレア 視察クルーズ

梅雨明け間近の7月14日(日)、名古屋板金連合会の見学勉強会が開催されました。今回は中部圏最大のプロジェクト、中部国際空港「セントレア」の視察クルーズが企画され、朝8時30分、名駅西口に集合バス2台(82名の参加)で出発、常滑港へ向かった。

このクルーズは「名鉄海上観光汽船」が毎週、水・金と第二・第三日曜日の14時に常滑港からの定期クルージングとして運行しているもので、なかなか好評の様で、今回、特別に臨時便を10時30分に出してもらった乗船となった。

常滑港を出て、反時計回りに航路をとってまもなく、片側2車線だけつながった連絡橋をくぐり空港島西側に回って改めて島の大きさと、巨大な建設重機、コンクリート仮設プラント、を観ることが出来た。50分程で一周して港へ戻って、時間の都合上、近くで昼食の後、また港に戻って、建設事務所内の「セントレア館」情報コーナーにおいて、これまでの工事記録のビデオや新空港の概要と工事の進行状況や新工法の説明(現在の



▲ 空港島とつながった連絡橋

熱田・南 伊藤

刈谷支部 簡易人間ドック

刈谷支部では七月十九日(金)刈谷市が行う簡易人間ドックに申し込み、集団検診を受けました。刈谷支部での集団検診は今年で8回目となります。今回、受診したのは12名であつたが、その内3組が夫婦でした。

簡易人間ドックの費用は一人当たり七千五百円ですが、個人で病院等で受診すると二万六千円〜二万八千円くらいかかるのとこと、市の保健センターで行う集団検診等受診するのが良いと思います。刈谷支部も全板国保加入者については補助があるので個人負担はほとんどありませんでした。

検診項目は次の通りでした。

- 。肺検診(レントゲン)
- 。胃検診。骨密度測定(希望者のみ)
- 。身長。体重測定
- 。眼底検査。眼圧測定
- 。視力検査。聴力検査
- 。心電図。血液検査
- 。尿検査。便潜検査
- 。血圧測定

受診当日は「朝食・水・コーヒー・たばこ・薬等一切とらないでください。」とのことでした。所要時間は約1時間程度か

春日井支部

7・8日 支部旅行・奈良大阪方面
フジテック・タカヤマ金属工場見学
23日 支部役員会 4名

津島支部
5日 定例会

小牧支部
9日 会合 11名

大山支部
15日 例会 全員

岡崎支部
3日 青年部役員会 8名

碧南支部
17日 岡板ゴルフ大会 24名

刈谷支部
22日 太子講 27名

豊田支部
19日 人間ドック受診12名

西尾支部
13日 第4回役員班長会

23日 技能検定反省会

知多支部
15日 定例会 13名

東三支部
26日 理事会 18名

4日 定例会 25名

12日 役員会 6名

15日 青年部定例会 9名

21日 家族親睦会(愛知県民の森) 大人59名 小人37名

25日 役員会 6名

編集後記

「使命感」責任感と通ずる所があるが、使命感には責任のように制裁や不利益を負わされることはないようだ。どちらも自ら進んで与えられた任務を成し遂げようとするものであるが、使命感とは与えられた天職というようなところがある。

責任は人に負わされるところが多いが使命は自分自身が負うのではないだろうか。責任は不利益になることがあるが使命はそれが無いので自分自身がより燃えると言いかやる気にならないことには達成できないように思う。

責任を押しつけられる前に使命感を持って進んで与えられた任務にアタックしていった方が気概や充実感が湧くのではないだろうか。押しつけられるのはいやだとか、誰かがやるだろうとか逃げ腰になるのではなく、何事にも積極的に使命感を持っていきたいと思う。

全板愛知大会までおよそ千日、みんなが使命感を持とう。七月二十六日(金) 晴 三七七号 編集委員会 広報委員 九名出席 午後四時二十分終了 加藤印刷からお菓子の差し入れがあり終了後意見交換。

驚見